



【神舞記念】 祝島自然エネルギー100% プロジェクトニュース

発行元 (社)祝島千年の島づくり基金
住所 〒742-1401
山口県熊毛郡上関町大字祝島218
TEL 0820-66-2100

臨時増刊号【神舞記念】
発行日 2012年8月16日

住宅用太陽光パネル設置事業(島の屋根貸し事業) 祝島自然エネルギー100%プロジェクトの賛同者の皆さんの 寄付金によって祝島に太陽光パネルが取り付けられました。

太陽光パネルの第1号 <設置個所 個人宅>



2011年9月15日、祝島住民の個人宅の屋根に、9枚の太陽光パネルが取り付けられました。この太陽光パネルは、祝島自然エネルギー100%プロジェクトの「屋根貸し事業」として設置された第1号です。このパネルの設置費用は、賛同者の皆さんの寄付金によって取り付けられました。

こちらのお宅では、9枚の太陽光パネル(発電能力は2kW)が取り付けられています。発電された電力の内、設置者のお宅で使用された電力分と、中国電力に販売された余剰電力分の料金が、設置者から祝島千年の島づくり基金に支払われる仕組みになっています。プロジェクトに戻されるパネルから得られる利益から、次に太陽光パネルを設置したい人への資金になります。」

取り付けたお宅の電力料金、余剰電力を販売した分のお金は、プロジェクトを運営する祝島千年の島づくり基金に支払われます。



太陽光パネル設置 第2号 <設置個所 島の食料品店さん>

2012年6月20-24日、梅雨の合間を塗って、祝島の中心にある食料品店さんの屋根に太陽光パネルを設置しました。今回は前回の3倍(発電能力6kWのパネル)の、発電能力を持つパネルが設置されています。今回の設置場所は島の中心にある食料品店さんなので、普通のお宅よりも冷蔵庫や空調を動かすためにたくさんの電気が必要なためです。このお店に設置することによって、島の人々が日々買い物に来るたびに太陽光での発電を実感することができます。

島の中心の、島民みんなが訪れるお店の電気が太陽光発電によって賄われることは、祝島を自然エネルギー100%にするための大きな1歩になると考えています。

お店は定期船の船着き場のすぐそばです。道路脇に写真の太陽光パネルの発電量がわかる掲示板「太陽光発電所(下段写真右)」が設置されていますので、ぜひお祭りの合間に現在の発電量を見つけてみて下さい。

太陽光パネル2号の設置後の状況

先月パネルをつけた直後は、電圧の問題で売電がうまくできなかったのですが、すぐに調整は完了し、現在はスムーズに発電中です。夏場は午前中も太陽の日差しがでると少しずつ発電を始めます。日差しが強くなる午後にはほとんどフルで発電しています！

この食料品店さんでは、計7台の冷蔵庫を使い、最近は店舗の商品管理のためにも日中エアコンで冷房を入れています、それでも余剰電力を売電することができています。



発電量が分かる掲示板「太陽光発電所」のとなりにもーターが2台あります。右が電力の購入量、左が電力の販売量を示しています。左側のメーターが回っている時は、電力会社に余剰電力を販売することできています。

太陽光パネル利用者の感想

電気を使って冷蔵庫や冷房を動かすのは以前と同じだが、やはり太陽光で発電しているという実感があります。自宅の玄関にも現在の発電量が分かるメーターがあるが、子ども達もメーターの前を通るたびに「お！」と発電量に注目しています。

また、台風の通り道である祝島では、台風のときに太陽光パネルが飛んでしまうのではないかと最初は少し心配していました。しかし、設置にあたった業者さんから施工状況の説明を受け、また強い風が吹く島であることを考慮して補強等も行うことも聞いて、今は安心してしています。



島の人々が毎日訪れ、目に触れる場所にパネルが取り付けられたことによって、だんだんと安全性も証明されてきています。



祝島自然エネルギー100%プロジェクトとは

千年以上にわたって続いてきた「いのちと暮らし」を守るために、祝島の島民は上関原発に対して28年以上にわたって反対してきました。

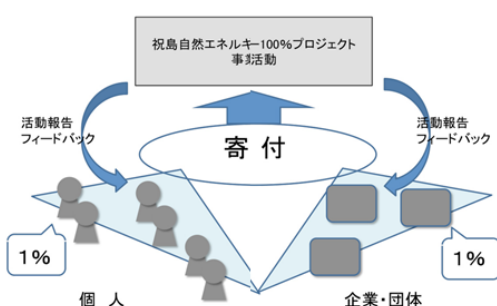
この「エネルギー100%プロジェクト」は、これから千年以上にわたる祝島の「いのちと暮らし」を守り育て創りあげていくための取り組みです。まず祝島自らが、原発ではなく、自然エネルギーで自立(自律)できることを実践的に示しつつ、瀬戸内に最後に残された貴重な自然や、豊かな食を提供してくれる海と山、そして千年続く祝島の文化や伝統こそが、これからの地域社会づくりであることを、身をもって世に問いかけたいと考えています。 右上図 キャンペーンロゴ(デザイン:黒田征太郎氏)



「1% for 祝島」プログラム

「祝島自然エネルギー100%プロジェクト」の活動は、「1% for 祝島」プログラムに支えられています。

これは、ご賛同いただいた企業、団体、出版、映画興行、アーティストのみならず、売上げ(全体でなくても、製品や事業単位の売上げ)の1%を「祝島自然エネルギー100%プロジェクト」にご寄付いただいています。



【ソーラー発電事業構想】 収穫型発電おひさまの畑事業

おひさまの畑事業とは、島の耕作放棄地を太陽光パネルを設置し、エネルギーを育てるアクティブな畑として再生する構想です。畑で収穫したエネルギー(発電エネルギー)は、他の祝島内の自然エネルギー利用事業と同じく、島民の生活のために利用し、余剰電力を電力会社に販売します。

この祝島のおひさまの畑でうまれた収益の一部は、島の一次産業(ひじき、びわ、たこ等)の加工や販売といった島の生業のための投資にまわしていきます。100%のエネルギー自給を実現させて、島の生活を支え、やりがいのある仕事をつくることで、千年つづくしまづくりを行っていきます。

「祝島自然エネルギー100%プロジェクト」では、現在以下の3つの事業を推進し、自然エネルギー100%を目指しています。
1、住宅屋根への太陽光パネル設置「島の屋根貸し事業」、
2、休耕地利用によるソーラー発電「収穫型発電おひさまの畑事業」
3、船用バッテリーへのソーラーパネル充電「漁船のバッテリー充電用太陽光発電パネル設置事業」

祝島100%自然エネルギー事業イメージ図



【コラム】祝島神舞について

◎神舞の由来

伝承によると今から千百十余年の昔、仁和二年八月、豊後伊美郷の人々が山城国石清水八幡宮より分霊を奉持して海路下向中、嵐に会い祝島三浦湾に漂着した。当時この地には三軒の民家があったが、生まれる子供は体が弱く生活は苦しかったが、彼らは一行を心からもてなした。その時に教わった荒神を祭り、農耕(麦作)を始めたことにより、以後島民の生活は大きく向上。それからそのお礼にと、島民は毎年八月に伊美別宮社に「種戻し」に欠かさず参拝をした。そして4年毎に伊美別宮社から二十余名の神職、里楽師を迎え、本島を斎場として神恩感謝の合同祭事を行うようになった。これが神舞神事の起源である。

神舞では三隻の神船を中心に權伝馬船等、百余隻に及ぶ大漁旗で飾った奉迎船が織りなす、勇壮な入船・出船の海上神事が行われ、古式豊かに三十三種類の神楽舞が新調の苦で小屋掛けされた仮神殿で奉納される。

◎神舞神事日程

8月16日	入船神事	12:00 - 16:00
8月17日~18日	岩戸神楽	8:30~
8月17日~19日	祈願神楽	8:30~
	(18日は午後から)	
8月19日	夜戸神楽	8:30~
8月20日	出船神事	11:00 - 14:00

(祝島神舞奉賛会ホームページより抜粋)

編集後記

いま、少しずつ始まっている「祝島自然エネルギー100%プロジェクト」の活動の一部を神舞で祝島を訪れている皆さんにご紹介したくて増刊号を作成しました。

祝島では、今も毎週月曜日の夕方に上関原発反対のための島内デモ行進が行われています。漁業に支えられている島の生活を守るため、地域の安全安心を自分達の手で守ってきたことを示すため、島を周って「原発反対」の声を伝える活動が続いています。祝島の住民が、自分達でつくりあげた生活を守りたい、と現代の社会に対して訴える活動です。

自然エネルギー100%プロジェクトは、現代の課題から目をそらさずに、未来の島づくりを考えたい取り組みです。外からの電力に頼らずに、島の生活や生業を成り立たせるためにはどうしたらよいか。未来の世代が暮らす島をどうつくるか。祝島で自然エネルギーを利用したエネルギーの自立を果たす取り組みとしてこのプロジェクトは始まりました。

現在、具体的な取り組みとして、島の漁船に太陽光パネルを設置する計画や休耕地を利用した太陽光発電事業の計画が動き出しています。

当プロジェクトではサポーター登録による応援を受け付けています。「1% for 祝島」プログラムやプロジェクトへの寄付等、祝島の自然エネルギー利用拡大にご協力をお願いします。

また、祝島のニュースや活動の状況について、ブログやツイッターでも紹介をしています。こちらでもフォロー、応援をよろしくお願いいたします。

- ・祝島自然エネルギー100%プロジェクト公式ホームページ <http://www.iwai100.jp>
- ・twitter iwajishima1000
- ・Facebook 祝島千年の島づくり基金

このプロジェクトの母体となっている島づくり基金は島民の方々自身の手で運営されており、そこに多くの島外の皆様のサポート、御支援をいただき事業が進められています。その島外からのお手強いメンバーとして、神舞が無事開催されます事に、御祝を申し上げます。

祝島を訪れると、過去と、今と、未来の時間が重なりあうような、不思議な感覚をふと纏うときがあります。ここでは、歴史が単なる時間の蓄積だけでなく、生き方の積み重ねの上にあるからではないかと考えています。毎日の生活を大切に生きている人たちが暮らす小さな小さな祝島が1000年続く事を、心からお祈り致しております。(神崎)